

特別展「復興を支える地域の文化—3.11 から 10 年」関連企画

じゃんがら念仏踊りみんなく公演

開催趣旨

「じゃんがら念仏踊り」は、福島県に伝わる独特の念仏踊りです。東日本大震災では、いわき市の久之浜も大きな被害を受けました。さらに、福島第一原子力発電所と近接するこの地は、原発事故の影響も大きく受けることとなりました。そうしたなか、地域で受け継がれてきた郷土芸能であり、死者供養の踊りでもあるじゃんがら念仏踊りが 2011 年の初盆に再開されたとき、地域の人びとにとって大きな心の支えとなりました。本公演では、じゃんがら念仏踊りの披露のほか、震災から 10 年間の久之浜の復興の過程と課題について、演者ととともに語りあいます。

じゃんがら念仏踊りとは

じゃんがらは、鉦と太鼓に合わせて、唄い踊る独特の念仏踊りで、初盆を迎えた家々を供養して回る踊念仏の一種です。現在、福島県いわき市を中心に、北限は福島県大熊町、南限は茨城県北茨城市に分布しています。いわき市内では、各地区の青年会や保存会を中心に継承されています。その起源は諸説ありますが、明暦 2 年（1656）に磐城平藩の郡奉行で用水路の工事を指揮した澤村勘兵衛勝為の霊を慰めるため、当時江戸で流行した泡齋念仏を村人たちが始めたとする説が有力視されています。

久之浜大久自安我楽念仏踊継承会

「久之浜大久自安我楽念仏踊継承会」は、東日本大震災の際、いわき市内でも被害の大きかった久之浜町、大久町のじゃんがら念仏踊りの保存会である。

東日本大震災による津波で鉦や太鼓、浴衣などの道具、衣装が流出したが、多くの人びとによってこれらが拾い集められ、活動を再開し、現在に至っている。

特別展との関連

第1章にて展示：第1章解説

東日本大震災では、三陸沿岸のアイデンティティともいえる郷土芸能の再開が、復興の原動力となったという事例が数多く報告されました。また、再開された郷土芸能を観るため、多くの人びとが三陸沿岸を訪れることで、復興支援の機運が高まりをみせました。このような営みは、まさに復興を支える地域文化の力強さを示したものだといえるでしょう。



プログラム

第1部 開会にあたって

- 0-① 館長あいさつ (国立民族学博物館長 吉田憲司)
- 0-② 趣旨説明 (国立民族学博物館 日高真吾)
- 0-③ 特展の紹介 (広報映像)
- 0-④ 第1章「復興を後押しする地域文化の可能性-郷土芸能の持つ力」(展示解説映像)

第2部 震災から再開したじゃんがら念仏踊りを振り返る

- 1-① じゃんがらの再開を決めた理由
- 1-② 再開したことでの地域の反応
- 1-③ じゃんがらを通じたこれまで10年間の地域活動を振り返って
- 1-④ 第2章「地域文化を再生する-博物館における文化財レスキュー」(展示解説映像)

第3部 じゃんがら念仏踊りみんぱく研究公演2015を振り返る

- 2-① みんぱく研究公演で受けた刺激
- 2-② 月刊みんぱくのエッセイ(千字文)で紹介したかったこと
- 2-③ 台湾での国際フォーラムを振り返って
- 2-④ 第3章「地域文化の再発見-十日町の着物の文化」(展示解説映像)
- 2-⑤ 現在のいわき、久之浜について紹介(広報映像)

第4部 コロナ禍でのじゃんがら念仏踊り

- 3-① コロナ禍でもやろうと思った理由
- 3-② 実際にやってみたときの地域の反応
- 3-③ 第4章「災害に備えて」(展示解説映像)
- 3-③ 最近の活動
- 3-④ これからの展望

第5部 みんぱく研究公演「じゃんがら念仏踊り2021」(波立海岸での映像紹介)